





ピンのアジア太平洋ジャンボリーに参加した日本派遣団第3隊（神奈川，東京，山梨）の主力もまた，そのGAT出身者であり，その時隊長であった私は，410名を越える大派遣団（8個隊）の中にあつて日本派遣団本部，救護部部长兼任であつたから，第3隊隊長としての働きはせいぜい40%にも満たず，ほとんど自己のキャンプサイトに

いる時間も少なかったが，第3隊のスピードや規律は少しも乱れることはなかつた。かえつて，体調をくずした他の隊のスカウトさえも第3隊のキャンプサイトへ収容し，特別食をつくつて喜ばれたほどの余裕さえ示したほどである。私がまがりなりにも2つの任務を全うすることができたことは，ひとつにその主力をなしたシニアスカウトたちの自発的な働きによるものであつたと常に思い浮かべている。

そのような成果を示しながらGATコースは50年度から，その展開を試行隊展開（「隊長ハンドブック」P47参照）に変え，同時に県連主催から各地区の進歩委員会，地区コミッショナーの手にゆだねられたのである。

#### 地区単位組織への移行

地区単位組織に移行しても，最も熱心にそれを進めたのは湘北，横浜中央，そして川崎地区の一部である。（神奈川は9地区に分かれている。）すなわち湘北地区は50年1月，3泊4日でその改

正された制度の研修会を日連那須野営場において行い，これはGAT予備コースと名づけて，湘北，横浜中央，川崎，横須賀の各地区からリーダー27名，スカウト38名が参加し，スカウト組織外からも特別講師をお招きし，「スカウティングと宗教」「世界の中の日本」「高校生の男女交際について」などの教養種目についてのセッションも

加え，もちろんシニアスカウトの組織と運営，プログラムの立案と計画・プロジェクト法についても研修した。

そして3月の春休みに，その本コースは開始された。すなわち，GAT第3期のシニアアドベンチャーキャンプ（4泊5日，山中野営場）は1月の予備コース出身者の手によって運営され，8月の八丈島ベンチャーキャンプ（単挑戦キャンプと2泊3日の移動キャンプを加えたもの）まで，それをつづけたのである。

同じようにして，

51年夏は7つのプロジェクトチームに分かれ，個人プロジェクト，班プロジェクト，隊プロジェクトをもって第2次東北遠征，青森まで遠征している。その間，4，5，6，7月の4か月間に遠征までのプロセス（「隊長ハンドブック」P106～110）と海洋訓練をふくむ技能章訓練はすべて行われていた。

なお，横浜中央地区のGATは50年9月開始，51年4月終了をもって春休み，和歌山へ遠征している。



